

第6学年英語科学習指導案



平成28年10月28日(金)5校時
武蔵村山市立第三小学校
第6学年3組27名
主任教諭 河上 卓

研究主題

「人との関わりを大切にし、豊かに表現できる児童の育成」
～グローバル人材育成に向けたオリンピック・パラリンピック教育の充実～

1 教材名「What time do you get up?～一日の生活を紹介します」(Hi, friends!2 Lesson6)

2 単元の目標

- ・積極的に自分の一日を紹介したり、友達の日を聞き取ったりする。
- ・世界には時差があることに興味・関心をもち、文化や気候に合わせて様々な生活様式があることに気付く。
- ・一日の生活について尋ねたり、答えたりする。

3 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	言語や文化に関する 気付き	外国語の音声などへの理解
・友達とのコミュニケーションを通して、楽しく積極的にゲームに取り組んでいる。 ・英語で話したり、ジェスチャーや表情を作ったりしながら、相手に動作を伝えている。 ・積極的に自分の一日を紹介したり、友達の日を聞き取ったりしている。	・世界には時差があることを知り興味・関心をもち。 ・世界には、文化や気候に合わせて様々な生活様式があることに気付く。	・時刻の言い方、尋ね方を理解している。 ・ゲームやチャンツを通して、一日の生活について紹介する表現を理解している。 ・自分の一日の生活を友達と紹介し合っている。

4 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は、小学校学習指導要領外国語活動第5学年および第6学年の内容の(1)「外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること」と(2)「積極的に外国語を聞いたり、話したりすること」、内容2の(1)「外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと」を受けて設定されている。

本単元では、「一日の生活を紹介します」という話題の中で、時刻や動作の言い方を扱う活動を通して、一日の生活を伝え合う楽しさを体験することをねらいとしている。また、世界と日本の時差を紹介する学習を通して、外国の子供たちがどんな生活をしているのか想像させることもできる。

児童にとって日常生活において自分の一日を紹介する機会は少ないが、時刻を尋ねたり答えたりする機会は多い。そこで、身近な自分の生活パターンを英語で表現することで、時刻の表現に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につなげたい。また、友達の一日の紹介を聞き、自分の生活と比べることでお互いの理解を深めることができるようになると考え、本単元を設定した。

(2) 児童について

児童はこれまでの活動の中で、色・食べ物・1～31までの数・動物・衣服・アルファベット・誕生日を伝え合う表現・canを使った表現など、様々な文字や語彙、英語表現に慣れ親しんできた。また、ALTや英語活動支援員、中学校英語科教員ともすすんでコミュニケーションを取ろうとする様子が見られる。

本学級（男子14名、女子13名）は、他の学習と同様に、英語活動の授業においても、興味をもって積極的に取り組むことのできる児童が多い。一方で、初めて耳にする英語の発音や表現に対して消極的になってしまう児童もいる。その中であって、友達同士で「上手に言えなくても大丈夫」と励まし合えたり、認め合えたりすることができる温かい雰囲気がある。そのため、ペアやグループなどの活動に対して助け合いながら協力して取り組むことができる。

本校の教職員にインタビューするという活動では、4～5人のグループで協力し、聞いたことをクイズにして学級全体で伝え合うことができた。その一方で、自分の意見を発表する場面では、自信をもてず、うまくコミュニケーションを図ることができない児童も若干名いる。

これから中学校へと向かうこの時期に、英語を通して自分の思いを伝え、相手の思いを受け取る楽しさをより多く味わわせたい。また、言葉だけでなく、ジェスチャーや表情で伝えることも多く経験させていきたい。ジェスチャーや表情を用いて伝え合うことで、児童の創造性を高め、表現の広がりを体験させるきっかけにもなると考える。

(3) 教材について

本単元では、主に時刻を題材として扱っている。数字に関しては、これまで1～100までの数、1日～31日などを表す序数について学習しているが、時刻の言い方についてはあまり定着を図ることができていない。「What time do you get up?」「I get up at 8:00」というターゲットとなる表現は、多少長めのセンテンスになるため、やや難しく感じる児童がいるのではないかと考える。そこで、「What time is it?」「It's 8:00」という比較的易しい表現から入り、ターゲットの表現に近付けていく。また、世界には時差があることに興味・関心をもたせることで、世界に目を向ける好機としたい。

さらに、時刻の言い方を用いて、英語で自分の一日を紹介させたり、友達の一日を尋ねて聞き取らせたりする活動を行う。本単元では、「get up」「go to bed」など日常生活上の行動を表す表現が多く出てくるので、チャンツや様々なゲームを通して実際に発話する機会を多く設けることで、こうした表現に十分に慣れさせていき、より多くの英語を使って友達と会話ができたという達成感を味わわせたい。

本単元で扱う英語表現は次の通りである。

What time is it? It's 8:30.

What time do you get up / eat breakfast / go to school? I get up at 7:00.

5 研究主題に迫る手だて

(1) 研究仮説

〔仮説1〕オリンピック・パラリンピック教育の視点から授業の充実を図ることが、児童の視野を広げ、グローバルな社会を生きる人材となる素地を養うことに繋がるであろう。

〔仮説2〕児童一人一人が分かる授業を展開するために授業作りに授業のユニバーサルデザイン化の手法を取り入れ、ねらいの達成から逆算した授業作りを行えば、児童の学習意欲や主体的に学ぶ態度、豊かな表現力を養うことができるであろう。

(2) 目指す児童像

高学年	自他のよさを認め、主体的に相手と関わり合いながら、表現活動を工夫したり、自己の最善を尽くしたりすることができる児童。
中学年	自他のよさを感じ、相手との関わり合いを通して、目標に向かって、主体的に表現できる児童。
低学年	自分のよさを感じ、相手との関わりを大切に、楽しく表現することができる児童。

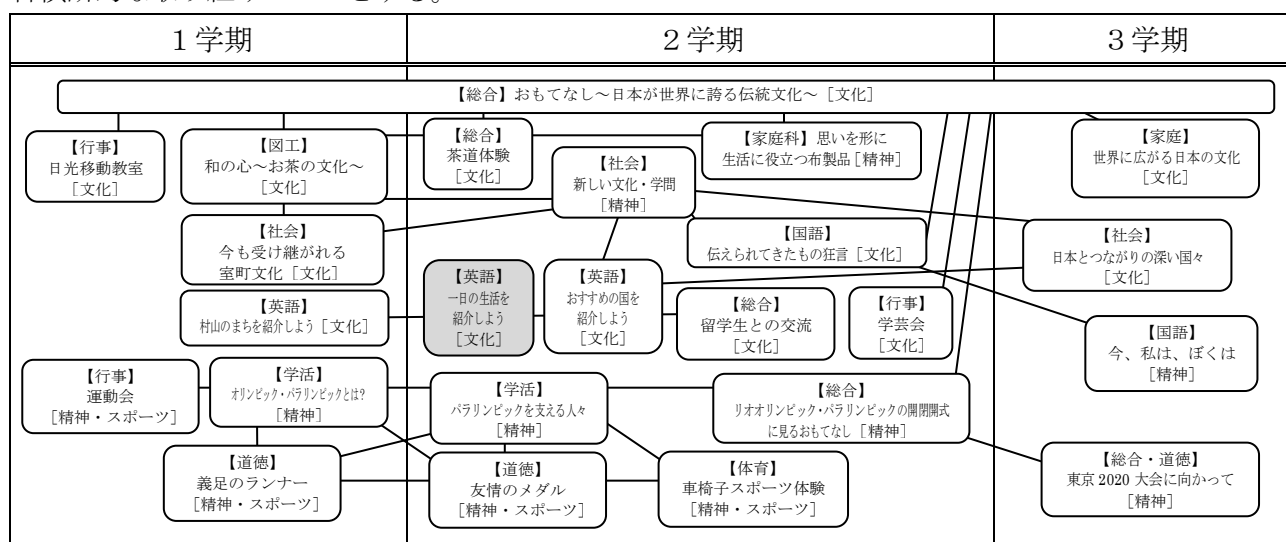
(3) 本単元におけるオリンピック・パラリンピック教育理念との関連

重点的に育成する五つの資質		4つのテーマ×4つのアクション（本時）
豊かな国際感覚	英語力を身に付ける コミュニケーションを図ろうとする意欲 世界の多様性を受け入れる力	文化×学ぶ

※その他には、アスリートによる体験教室や留学生との交流、学芸会の招待状の書き方を学ぶなどの伝統文化に関する学習も行う。年間を通して、「東京都オリンピック・パラリンピック教育」実施方針に沿った活動を意識して設定する。

(4) 他単元及び他教科との関連（他教科・他領域や日常的な指導等との関連）

高学年の目指す児童像「自他のよさを認め、主体的に相手と関わり合いながら、表現活動を工夫したり、自己の最善を尽くしたりすることができる児童」の実現ため、この題材の学習は、下表のような教科横断的な取り組みの一つとする。



第6学年では、総合的な学習の時間の単元として「おもてなし」を題材にすることにした。

1学期は、日光移動教室での、ホテルの従業員の方や様々な見学先のガイドの方による「おもてなし」、海外で選手経験のある元プロサッカー選手から日本と外国の「おもてなし」の違いや日本のよさについての講話、ALTによるアメリカとの違いなど、「おもてなし」について触れる機会が多くあった。

2学期には、地域に住む茶道の先生に協力をお願いし、社会科学習の発展としての「茶道体験」をきっかけとして「おもてなし」を学習材として追究することで、児童に様々な学びが期待できると考えた。また、外国人留学生との交流活動も行い、相手の気持ちを考えた「おもてなし」の心について考える機

会を設定している。今回の英語活動の授業においても、一日の生活を紹介し合う活動の際に、相手を意識して、丁寧な表現で相手の一日の過ごし方について尋ねる。

また、他にも全校競技車椅子体験や、アスリートを招聘した授業を予定しているが、それらをオリンピック・パラリンピック精神に関する学習を中心にしながら関連させ、充実した学びにしていきたい。

（５）本時の指導におけるユニバーサルデザインの視点について

本時の授業計画の組み立て（ねらいの達成から逆算）

授業展開	活動の様子	授業のユニバーサルデザイン視点
ねらいの達成 (展開後半) ↓	時刻や行動を表す表現を使った活動を通して、友達とコミュニケーションを図る。	①できるだけたくさんの友達と交流できるよう声かけをし、「発話したい！」という意欲を大切にするべく、一人一人の発話場面を多く設定し、交流させる。【共有化】 ②展開前半までに学んできた英語表現を活用して、多くの友達と自分の一日を紹介したり、友達の一日を聞き取ったりできるようにする。【焦点化】
展開前半 ↓	時刻や行動を表す英語表現に慣れる。	①ゲームのやり方を一方的に説明するのではなく、指導者が実際に代表の児童と一緒にデモンストレーションを行うことにより、児童がゲームの行いをより理解できるようにする。【共有化】 ②電子黒板に映像を映し出したり、拡大したチャンツの歌詞カードを黒板に掲示したりすることで、児童の思考の一助とする。【視覚化】 ③簡単なルーティンゲームから始め、英語表現に慣れさせていく。 【スモールステップ化】
授業の導入	本課題を確認し、授業の見通しをもつ。	○本時の流れを表したホワイトボードを黒板に掲示することで見通しをもち、視覚的な効果を促す。【視覚化】【ねらいの構造化】
個別支援	自信をもって発話できない。	○個別に声をかけ、うまく伝えられない場合にはジェスチャーを使ってもよいなど、どのように表現すればよいかを教える。

6 指導計画（全5時間）

次	時	学習のねらい	学習活動・予想される児童の考え	評価
1	1	英語での時刻の言い方、尋ね方を知り、世界には時差があることに興味・関心をもつ。	①時計の模型を使って、英語での時刻の言い方、尋ね方を知る。 ②様々な都市の時刻を聞き取り、世界には時差があることを確認する。 ③「60ゲーム」をする。 ④クイズ「いろいろな国の小学生」に答える。 ・英語で時刻を表すときは、数字を言うだけでいいんだ。 ・日本とアメリカは半日以上の時差があるんだ。	・世界には時差があることに興味・関心をもっている。 ・世界には、文化や気候に合わせて様々な生活様式があることに気付く。 【言語や文化に対する体験的な理解】

2	1	一日の生活を説明する表現を理解する。	① “What time do you get up?” を歌う。 ② 日常生活に関連した行動を表す表現を確認する。 ③ 「ビンゴゲーム」をする。 ④ 「指さしゲーム」をする。 ・「play」の後に「the」が付くものと付かないものがあるんだね。 ・朝食、昼食、夕食を表す英語は、全部「eat」で始まるんだね。	・英語で話したり、ジェスチャーや表情を作ったりしながら、相手に動作を伝えている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 ・ゲームやチャンツを通して、一日の生活について紹介する表現を理解している。 【外国語の音声などへの理解】
3	1	先生や友達の一日の生活についてのまとまった話を聞き、一日の生活について紹介する表現に慣れ親しむ。	① “What time do you get up?” を歌う。 ② 「インディアンルーレットゲーム」をする。 ③ 先生がどのような一日を過ごしているかを予想し、聞き取る。 ④ ペアの友達がどのような一日を過ごしているかを予想し、聞き取る。	・ゲームやチャンツを通して、一日の生活について紹介する表現を理解している。 ・自分の一日の生活を友達と紹介し合っている。 【外国語の音声などへの理解】
4	1 本時	時刻や行動を表す表現を使った活動を通して、友達とコミュニケーションを図る楽しさを味わう。	① “What time do you get up?” を歌う。 ② 「伝言リレーゲーム」をする。 ③ 「インタビューマッチングゲーム」をする。 ・たくさんの友達と会話を交わすことができた。 ・時刻の言い方に慣れてきた。	・友達とやりとりしながら楽しく積極的にゲームに参加している。 ・積極的に自分の一日を紹介したり、友達の一日を聞き取ったりしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
5	1	クイズ大会を通して、自分の一日を紹介したり、友達の一日を聞き取ったりする。	① “What time do you get up?” を歌う。 ② グループ内で誰の一日をクイズとして紹介するのかを決めて、役割を分担する。 ③ クイズ大会「誰の一日でしょう？」を行う。	・積極的に自分の一日を紹介したり、友達の一日を聞き取ったりしている。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

7 本時の学習

(1) 本時の目標 (4 / 5 時間扱い)

時刻や行動を表す表現を使った活動を通して、友達とコミュニケーションを図る楽しさを味わう。

(2) 展開

過程	学習活動と予想される反応 ・予想される反応	●指導上の留意点 ◆個別の配慮 ◎評価【観点】(方法)	☆ユニバーサルデザインの 視点
導入 8分	<p>1 ウォームアップに取り組む。</p> <p>○日付や曜日、天気を確認する。</p> <p>・イングリッシュリーダー (以下 EL)</p> <p>は前に出る。</p> <p>・明るく元気よく挨拶する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: Let's start our English class!</p> <p>EL: Hello, everyone.</p> <p>C: Hello, ○○ & Suguru.</p> <p>EL: How are you doing?</p> <p>C: I'm happy ! / I'm tired. / I'm sleepy.</p> <p>EL: How is the weather like today?</p> <p>C: It's sunny / rainy / cloudy today.</p> <p>EL: What day is it today?</p> <p>C: It's Friday.</p> <p>T: What's the date today?</p> <p>C: It's October 28th.</p> </div> <p>○3つのコミュニケーションスキルを確認する。</p> <p>「Smile」「Eye-contact」「Clear voice」</p> <p>○本時の学習の流れを確認する。</p> <p>2 “We are the world”を歌う。</p> <p>○パートに分かれて歌う。</p>	<p>●笑顔で元気よく挨拶を交わすことにより、児童に授業の始まりを意識させるようにする。</p> <p>●お互いの顔が見渡せるように円になって座らせる。</p> <p>●明るく楽しい雰囲気を作るようにして、空間を有効に活用する。</p> <p>●イラストの入ったコミュニケーションスキルカードを提示することで、視覚的な効果を促す。</p> <p>●授業の流れを表したホワイトボードを黒板に掲示することで視覚的な効果を促す。</p> <p>●世界各国の子供たちの笑顔の表情を映像として流すことにより、歌の世界に入り込めるようにする。</p> <p>●歌詞カードを見ないで歌わせることで、児童の挑戦意欲を喚起する。</p> <p>●パートに分かれて歌う場面を設けることで、「できた」という達成感をもたせる。</p>	<p>【視覚化】</p> <p>【視覚化】</p> <p>【ねらいの構造化】</p> <p>【焦点化】</p> <p>【視覚化】</p> <p>【共有化】</p>
展開 30分	<p>3 本時の目標を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>時刻や行動を表す表現を使った活動を楽しもう</p> </div>	<p>●この時間に何ができればいいのかを児童に明確に示す。</p>	<p>【焦点化】</p> <p>【展開の構造化】</p>

<p>4 チャンツ “What time do you get up?” を歌う。</p> <p>①全員一斉にジェスチャーを付けながら歌う。</p> <p>②パートに分かれて歌う。</p> <p>5 「伝言リレーゲーム」をする。</p> <p>①生活班 6 つのグループになり、(各グループ 4～5 人)、縦一列に並んでイスに座る。</p> <p>②デモンストレーションを見てゲームの進め方を知り、一度練習を行う。</p> <p>③各列の先頭の児童に、生活に関わる 8 枚のピクチャーカードの中から好きな 1 枚を選択して伝える。</p> <div data-bbox="233 927 652 1137" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>get up take a bath</p> <p>eat breakfast eat lunch</p> <p>eat dinner go to bed</p> <p>go to school go home</p> </div> <p>④選んだカードの内容をもとに、生活についての時刻を問う質問を、先頭から順に伝えていく。 奇数順 (1・3 番目) は質問をして、偶数順は (2・4 番目) は答えてリレー形式で伝えていく。</p> <p>A: What time do you get up? ”</p> <p>B: I get up at 6:30.</p> <p>C: What time do you get up? ”</p> <p>D: I get up at 7:00.</p> <p>⑤一番後ろの児童は、答えを先頭の児童に伝える。先頭の児童は挙手によって終了の合図を伝えるようにする。</p> <p>⑥全グループが終了したら、質問と答えを確認する。</p> <p>⑦ルールを変えて 2 回戦目を行う。</p>	<p>●電子黒板に「Hi, friends! 2」のチャンツのページを映し出して、視覚的に分かりやすく提示する。</p> <p>●チャンツの歌詞の拡大コピーを黒板に掲示する。</p> <p>●児童が発話したり聞き取ったりする機会を多く設けることで、時刻や行動についての英語表現に慣れ親しませるようにする。</p> <p>◆うまく伝えられない場合はジェスチャーを使って教えてもよい旨を伝える。</p> <p>●ゲームを行う上で不公平がないように、センテンスの長短、難易度を配慮したピクチャーカードを用意する。</p> <p>●同じゲームでもルールを変えて行うことで、児童の挑戦意欲を喚起する。</p> <p>◎友達とのコミュニケーションを通して、楽しく積極的にゲームに参加している。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (行動観察・振り返りカード)</p> <div data-bbox="721 1408 1428 1671" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>< 2 回戦目のルール ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでピクチャーカードを選ぶ。 ・並び順をローテーションで変更する。 ・スピード勝負とし、早くリレーできたグループから答えを確認していく。 </div>	<p>【視覚化】</p> <p>【視覚化】</p> <p>【スモールステップ化】</p>
---	--	--

<p>6 「インタビューマッチングゲーム」をする。</p> <p>○展開前半までに学んできた英語表現を活用して、多くの友達と自分の一日を紹介したり、友達の一日を聞き取ったりできるようにする。</p> <p>①自分の一日の生活の様子をワークシートに記入する。 (朝起きる時刻、お風呂に入る時刻など)</p> <p>②教室内を歩き回り、出会った友達や先生と会話を交わし、自分と同じ時刻の人を見つけたら、その人の名前と人数を記入する。</p> <p>③項目ごとに人数や合計人数を確認する。</p>	<p>●活動の場を元に戻す。</p> <p>●指導者が実際に代表の児童と一緒に見本を示すことにより、児童がゲームのやり方をより理解できるようにする。</p> <p>●時刻は30分単位で記入するよう伝える。</p> <p>●一人一人の発話場面が多くなるように、十分な時間を設け、交流させる。</p> <p>◆戸惑っている児童には個別に声をかける。</p> <p>◎積極的に自分の一日を紹介したり、友達の一日を聞き取ったりしている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (行動観察・振り返りカード)</p>	<p>【焦点化】</p> <p>【共有化】</p>
<p style="text-align: center;">《 ゲームのルール 》</p> <p>A: Hello. B: Hello. (ジャンケンをして勝った方が、生活に関わる8つの行動の中から1つを選び、それをジェスチャーで表す。但し、<u>ジャンケン</u>は先にジェスチャーをする権利を得るためだけの<u>ものである。</u>)</p> <p><A が勝った場合></p> <p>A: Look . B: OK. …… Get up. A: Bingo! / Sorry. (ジェスチャーを当ててもらえたら、そのジェスチャーに関する質問をすることができ、残念ながら外れた場合はその相手には質問することができない。)</p> <p>A: What time do you get up? B: I get up at 7:30. A: Me, too ! / I see. Thank you. (同じ時刻だった場合は2人ともチェックすることができる。)</p> <p>B: Look . A: OK. …… Go to bed . B: Bingo! / Sorry. What time do you go to bed? A: I go to bed at 9:00. B: Me, too ! / I see. Thank you. See you. A: See you. Bye.</p>		

<p>まとめ 7分</p>	<p>7 今日の活動を振り返り、カードに記入する。</p> <p>「My good job! (自分の良かったところ)」</p> <p>「Friend's good job! (友達の良かったところ)」</p> <p>「今日の感想」の3項目について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から積極的に話しかけることができた。 ・言い方が分からなかったときにみんなで教え合っていた。 <p>8 挨拶をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>T: That's all for today.</p> <p>EL: Good-bye, everyone.</p> <p>C: Good-bye, ○○ & Suguru.</p> <p>EL: See you.</p> <p>C: See you.</p> </div>	<p>●次時の活動につなげるために頑張ったことや授業の感想などを記入し、発表させることでお互いに理解を深め合う。</p> <p>●教師が率先して児童の具体的な活動場面を賞賛することで、児童の発言を促す。</p>	<p>【共有化】</p>
-------------------	---	---	--------------

8 板書計画

時刻や行動を表す表現を使った活動を楽しもう

学習の流れ

- ① Greeting
- ② Song time
- ③ Activity time 1
Activity time 2
Activity time 3
- ④ Review time
- ⑤ Last greeting

チャンツ
 “What time do you get up?”
 歌詞カード拡大コピー

「インタビューマッチングゲーム」
 ワークシート
 デモンストレーション用拡大コピー

コミュニケーション
 ヨンカード
 [smile]

コミュニケーション
 ヨンカード
 [eye-contact]

コミュニケーション
 ヨンカード
 [Clear voice]

日常生活上の行動を表すピクチャーカード

get uptake a bath

eat breakfasteat lunch

eat dinnergo to bed

go to schoolgo home